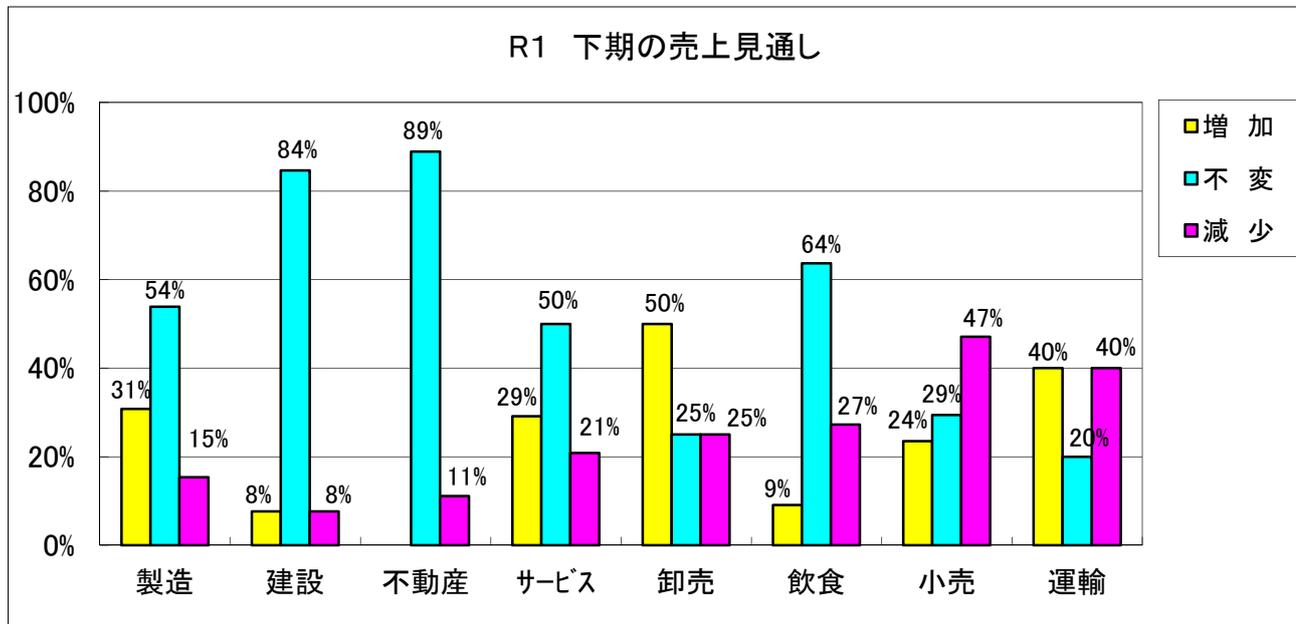


調査2 平成31年1月～令和元年6月を基準とした令和元年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

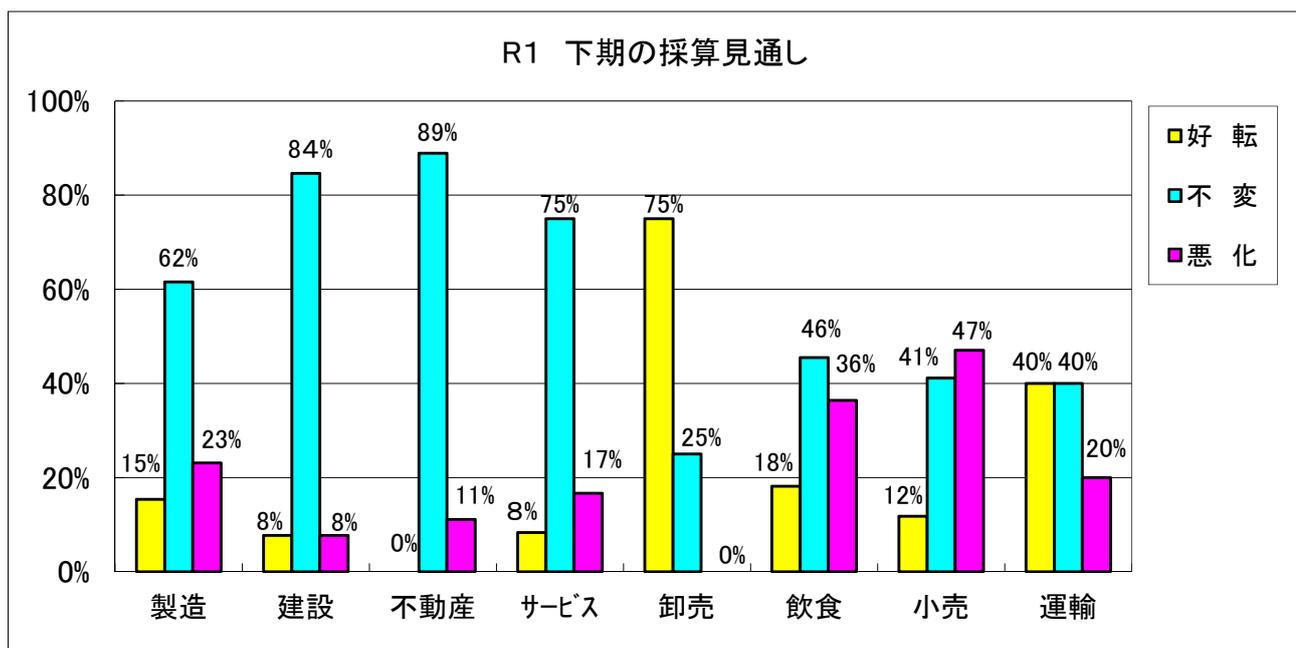
①売上見通し

全体でみると「増加」22%（前回25%）、「減少」24%（前回25%）、「不変」54%（前回50%）となっている。業種別でみると「増加」の見通しがあるのが卸売業（50%）、一方、「減少」の見通しが強いのが小売業（47%）であった。



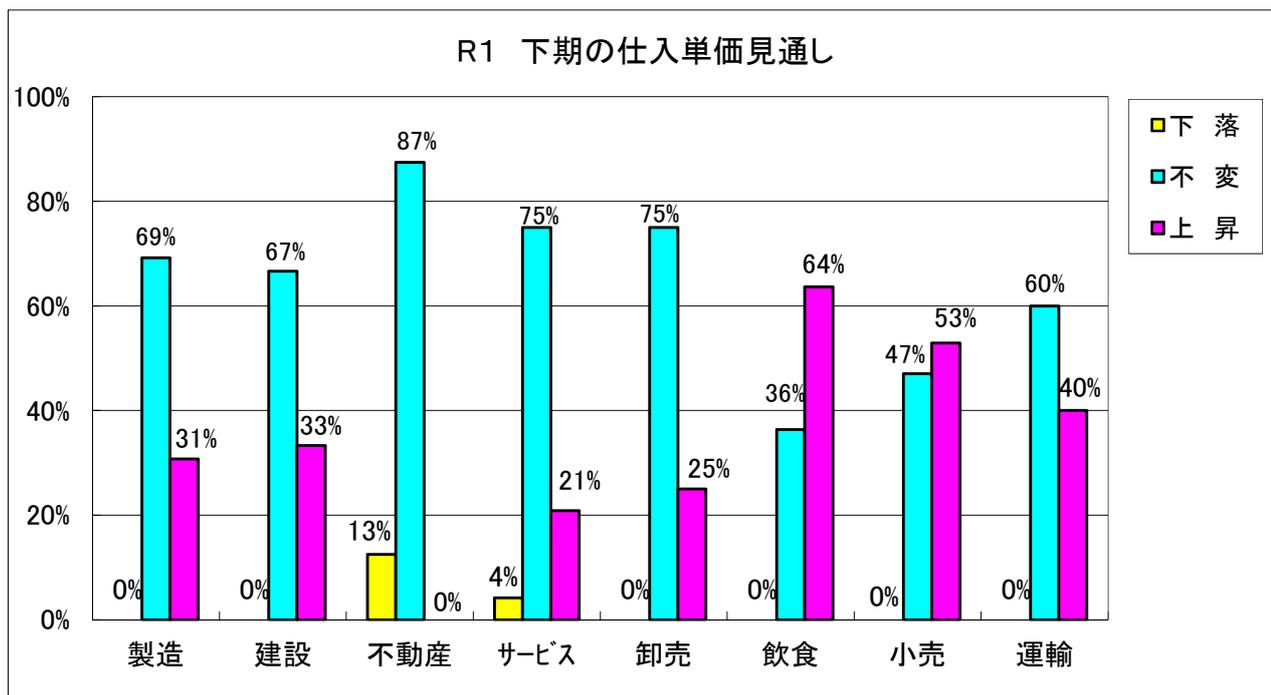
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が15%（前回12%）、「不変」が63%（前回68%）、「悪化」が22%（前回20%）となった。業種でみると、「好転」の見通しが多いのが卸売業（75%）で、「悪化」の見通しが多いのが小売業（47%）、飲食業（36%）となっている。



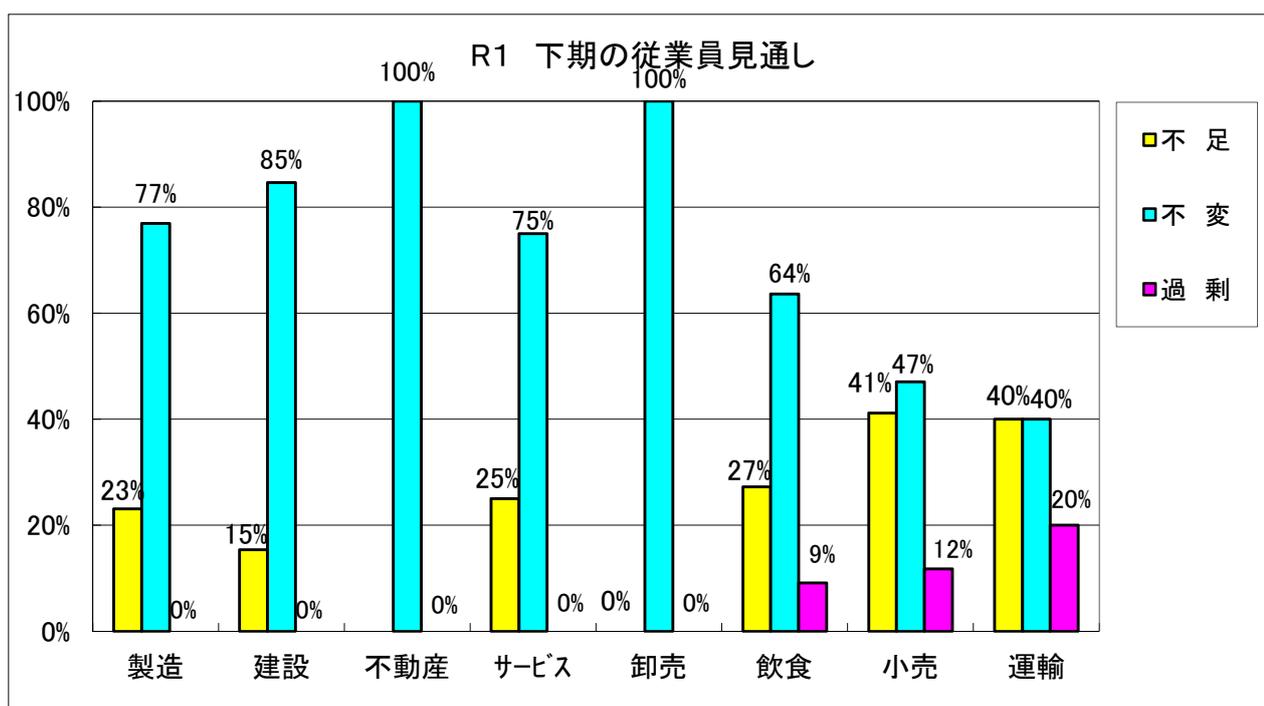
### ③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が64%（前回65%）、「上昇」が34%（前回32%）の見通し。業種別では「上昇」が高いのは飲食業64%（前回64%）、小売業53%（前回21%）と小売業の仕入単価が大幅に上昇見通しとなっている。



### ④従業員の見通し

全体的には、「不足」が24%、「不変」が72%、「過剰」4%であった。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが小売業41%（前回18%）、運輸業40%（前回60%）であった。

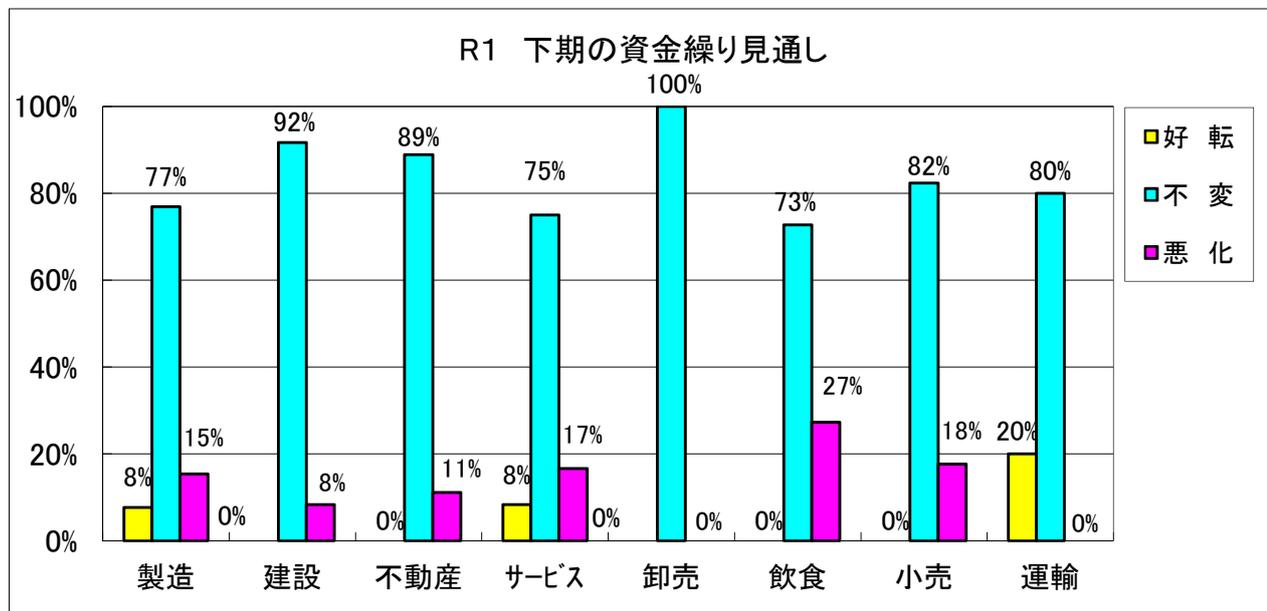


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が80%と多く、「悪化」が16%、「好転」が4%であった。資金繰りが「悪化」の見通しが高いのが飲食業36%（前回23%）であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(59%)が多く、続いて「融資無し」(30%)、「緩やか」「厳しい」がともに7%となっている。業種でみると、「緩やか」の回答が多かったのが製造業(23%)、「厳しい」との回答が多かったのが卸売業(25%)であった。

